

経営比較分析表（平成29年度決算）

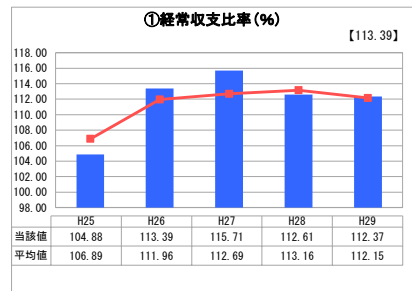
熊本県 荒尾市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	60.85	95.67	2,700	

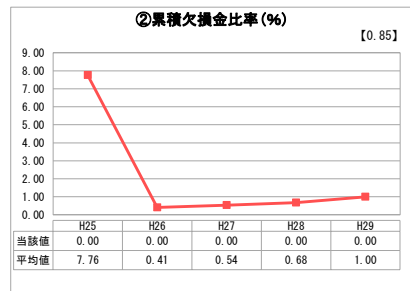
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
53,432	57.37	931.36
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
50,801	25.00	2,032.04

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

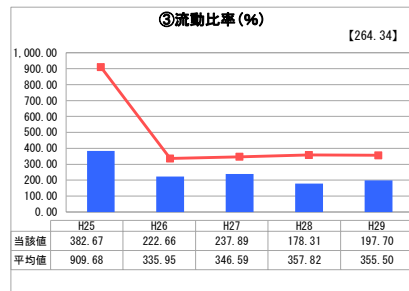
1. 経営の健全性・効率性



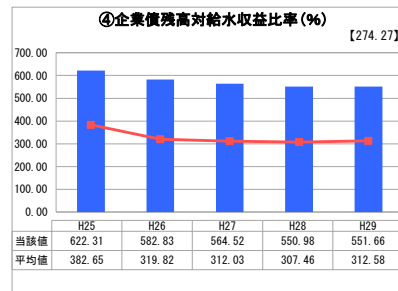
「経常損益」



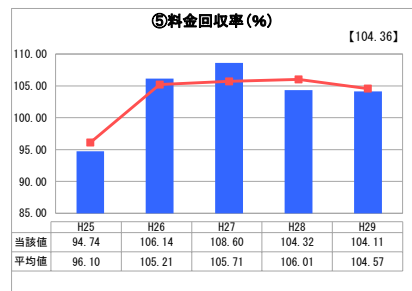
「累積欠損」



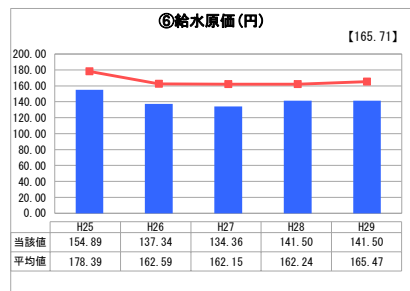
「支払能力」



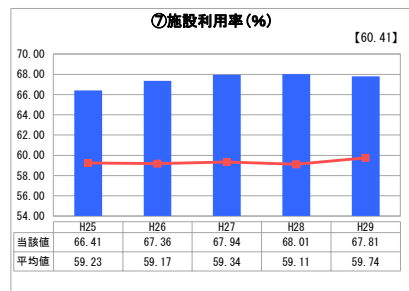
「債務残高」



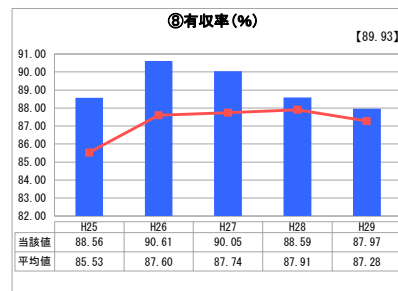
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

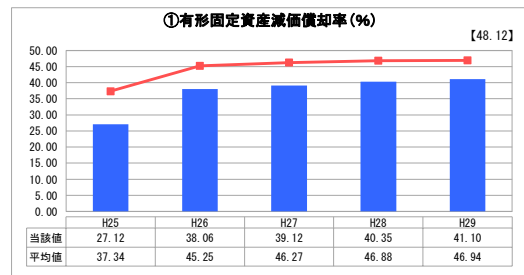


「施設の効率性」

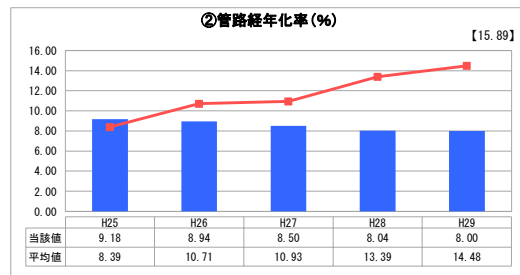


「供給した配水量の効率性」

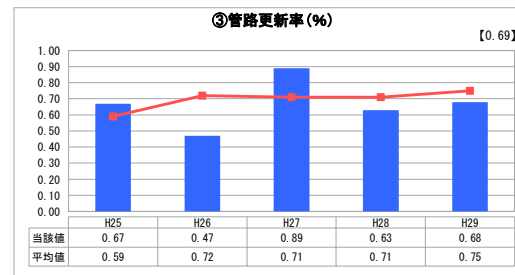
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全性については、「企業債残高対給水収益比率」が類似団体と比較して高い数値となっている。(要因) 平成22、23年度に「ありあけ浄水場」の建設費として1,018,557千円を要したことにより、企業債残高が増加したためである。(今後の対策) 経営状況は、類似団体と比較しても大きな問題は無いように見えるが、将来的な見通しを踏まえると楽観視はできない状況である。安定した経営を維持していくため、今後も計画的に更新事業を実施し、経常収支とのバランスを考え設備投資と借入を行っていく。

効率性については、平成26年度より「有収率」が年々減少傾向にある。この要因の多くは漏水であるため、漏水防止対策を進めていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

「管路更新率」は過去5ヵ年平均で0.67%と類似団体の0.70%を下回っているため、計画的に更新を実施する必要がある。(今後の対策) 平成28年度から中長期計画策定に着手し、平成30年度末までに施設再構築計画の策定及び更新需要見通しの検討を行う。施設、設備の劣化状況を正確に把握することにより、耐震化も併せた計画的、効率的な修繕、更新を行っていく予定である。

全体総括

現在のところ、類似団体と比較すると概ね良好な水準である。しかし、今後は人口減少による給水収益の減少と、老朽施設が増加することによる費用の増加が予測され、健全な事業経営のために長期的な対策が必要と考えられる。(今後の対策) 平成31年度までに、更新需要、財政収支見直しに基づく計画的な施設更新、資金確保を行うための中長期計画を策定する。将来の人口減少を見据えた効率的な施設整備及び財政計画を検討し、安全で安定した供給サービスを永続的に提供できるように努める。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。